

# Japan Steel Bridge Competition

## 日本鋼橋模型製作コンペティション

JSBC2023年大会参加者



### JSBC2023

第14回となる2023年大会は、昨年9月6日から8日にかけて室蘭工業大学で開催された。通算では15回目となるこの大会には16校18チーム、学生145人が参加して橋梁模型製作で技術力を競った。参加校が増えて大いに盛り上がりを見せた大会の様子を小室雅人実行委員長と森山仁志広報部会長に聞く。



JSBC広報部会長 森山 仁志氏 (徳島大学講師)

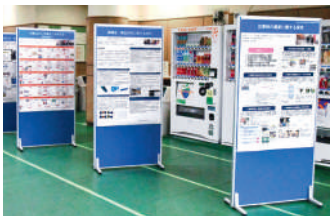


JSBC実行委員長 小室 雅人氏 (室蘭工業大学教授)



開会式

23年大会は、停滞して開かれ、多くの学生が訪問したいへん盛況で、学生にとっても橋梁業界の方々と直接交流できる有意義な場となりました。ほかに、鉄鋼連盟や橋建協による橋梁用鋼材の交換や鋼橋の架設に関する特別講演会、参加校の研究内容を紹介するポスターセッションなど様々な催しも実施し、盛況のうち閉会することができました。



研究室紹介



特別講演会



閉会式(次回開催挨拶)

企業ブースは全日程で開かれ、多くの学生が訪問したいへん盛況で、学生にとっても橋梁業界の方々と直接交流できる有意義な場となりました。ほかに、鉄鋼連盟や橋建協による橋梁用鋼材の交換や鋼橋の架設に関する特別講演会、参加校の研究内容を紹介するポスターセッションなど様々な催しも実施し、盛況のうち閉会することができました。

製作した鋼製橋梁模型を対象に行っています。「架設部門」は作業者が陸上と河川を模した区画に分かれて架設を行う。橋梁を組み立てる速さを競います。「構造部門」では橋梁への荷重載荷時のたわみを競います。「美観部門」は構造面も考慮した美しさを評価します。

また、これら3部門の総合点とプレゼンテーションも含めた総合点を評価して「総合部門」として順位を決定しています。実施ルールについては大会ごとに制作しており、23年大会では第14回目にして初となる「斜橋」を対象として採用しました。支間長4桁の斜橋(単径間、橋台4力所)を時間内に架設し、支間中央

の横桁2本で支える木製床版上に80kgfと120kgfの重りを橋軸直角方向に配置して、その際の2主桁間の平均たわみ(目標値10mm)を競うルールで、目標値に近いほど高評価となります。また、2主桁間の平均たわみとたわみ差には、制限値を設けました。(6面へ)



室蘭工大Bチーム

JSBC2023 いた学生交流や橋梁技術を継承する機会を復活させるべく交流会も復活させ、企業展示のブースも積極的に受け付けました。そのため、初の北海道開催でしたが、全国から16校18チームが参加し、企業展示ブースも15社に出展していただきました。

小室 参加校は、室蘭工業大学と日本大学が2チーム参加し、岩手大学、名古屋工業大学、愛知工業大学、名城大学、富山大学、福井大学、京都大学、大阪公立大学、山口大学、九州大学、熊本大学、熊本高等専門学校が16校18チームが出場しました。

大会のスケジュールは、1日目に参加受付と架設練習、開会式を行い、2日目に架設競技とチーム紹介、懇親会などを実施しました。

森山広報部会長 通常、評価は「架設部門」「構造部門」「美観部門」「総合部門」の4つの観点から出場チームが実施ルールは、総合点とプレゼンテーションも含めた総合点を評価して「総合部門」として順位を決定しています。

また、これら3部門の総合点とプレゼンテーションも含めた総合点を評価して「総合部門」として順位を決定しています。実施ルールについては大会ごとに制作しており、23年大会では第14回目にして初となる「斜橋」を対象として採用しました。



富山大チーム

### 福井大学が3冠、総合2位に室蘭工大

### 16校18チーム学生145人が参加

「多くの学校が参加できるような努力」費用などの負担が出場のハードルに 一部集まって開催するなどのコロナ禍以前に近い大垣 コロナ禍ではオ 2022年大会から対面した。

開始から14年経過し学校からも参加がなくなって、回を重ねるごとに参加校が増えています。一方、鋼構造研究室エリアも北海道から九州まで拡がり、全国大会にふさわしい規模に成長しました。また、高等専門

最終日 開催結果

総合部門	架設部門	構造部門	美観部門
1位 福井大学	福井大学	福井大学	富山大学
2位 室蘭工業大学B	名古屋工業大学	熊本高専	京都大学
3位 熊本高専			



福井大チーム



富山大チーム

